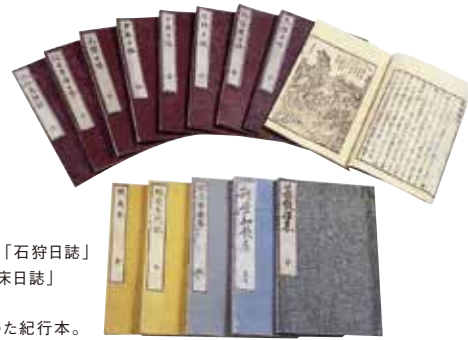




その先の、道へ。北海道  
Hokkaido, Expanding Horizons.

明治維新を迎えた新政府は多くの有能な人材を北海道へ派遣し、開拓に全力を注ぐことになります。北海道開拓に尽力した先人たちの熱い想いと軌跡をご紹介します。

2018年(平成30年)、本道が「北海道」と命名されてから150年の節目を迎えました。

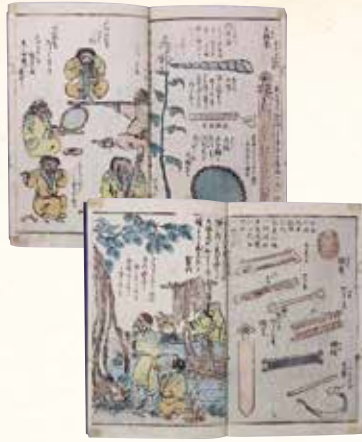


「北蝦夷余誌」「後方羊蹄日誌」「石狩日誌」「十勝日誌」「知床日誌」「天塩日誌」など地域ごとにまとめた紀行本。



# 未知は拓ける

創造価値への挑戦、そして未来への扉



蝦夷漫画  
安政6年(1859年)、アイヌの人々の暮らしを絵図入りでわかりやすく紹介したものです。

幕末から明治に活躍した探検家松浦武四郎は、蝦夷地と呼ばれていた北海道を6回にわたり訪れ、詳細な記録をまとめました。この調査を通じて武四郎はアイヌの暮らしにも深く触れるとともに、アイヌ民族の文化が独自に育まれた素晴らしいものであることに気づいていきます。

## 武四郎のアイヌ民族への想い

武四郎はアイヌ民族の若者が次々と漁場へ連れていかれ、過酷な労働で倒れていく姿を目の当たりにして、幕府に対し「明日の開発はもろろん大事だが、まずは今日のアイヌ民族の命と文化を救うべきである」という内容を調査報告書の随所で訴えています。そして、民族と文化を守るためには、アイヌ文化を正しく理解してもらうことが必要であるとし、アイヌ民族の紹介に努めました。アイヌ民族の暮らしを伝えるために出版された「蝦夷漫画」は、アイヌの人々の生活文化を武四郎自身が描いたもので、アイヌ文化の小百科事典ともいえる内容です。また、

漁業生産の場としての「場所」と蝦夷地は区分され、家臣は「場所」での漁業経営を商人に請け負わせるようになってきました。この「場所請負制度」により、商人は利益を増すためにアイヌの人々を労働力として確保するために自由な移動や結婚を禁止、強制的に酷使することになったていきました。一方、幕府の「撫育同化政策」はアイヌ民族に対し、本州と同じような暮らしを強制させるものです。幕府はロシアの南下政策に対し、蝦夷地は日本の領土であること主張し、そのために文化の異なるアイヌ民族に本州の文化を強制的に押し付けようとした。こうした状況に対して武四郎は、アイヌ民族は独自の文化を持った人々で、その文化は尊重されるべきこととし、正しい理解を求めて幕府への調査記録などで切実に訴えていきます。



近世蝦夷人物誌  
安政5年(1858年)、出版の許可を願い出たが箱館奉行は出版を許可しませんでした。現在は「アイヌ人物誌」という書名で現代語訳が出版されています。

## 「北海道」の名づけ親 「第三部」 まつ たら たけし ろう 松浦武四郎 (1818~1888)

出身地/三重県松阪市小野江町(旧国名/伊勢国一志郡須川村)

幕末から明治に活躍した探検家松浦武四郎は、

この調査を通じて武四郎はアイヌの暮らしにも深く触れるとともに、アイヌ民族の文化が独自に育まれた素晴らしいものであることに気づいていきます。

## アイヌの人々との触れ合い

松浦武四郎の蝦夷地調査は6回に及び、そのすべてにおいて各地で暮らしているアイヌの人々の協力を得て調査を進めて行きました。寝食を共にする中でアイヌの人々の理解にも努め、アイヌの言葉を積極的に勉強しました。また、「野帳(のちよう)」と呼ばれるメモ帳に訪れた土地の様子をスケッチし、アイヌ文化、アイヌ語の地名から地形・動植物まで見聞きしたことを詳細に記録。それらをまとめ「東蝦夷日誌」「西蝦夷日誌」を出版しました。さらに、武四郎個人の意思で始めた「探検家としての3回までの調査を」として明らかにしたことは、蝦夷地を支配する松前藩のアイヌに対する庄政、豊富な海産物に目をつけた商人たちによる労働の強制や搾取などアイヌの人々が置かれていた過酷な状況です。

## 幕府お雇い役人としての調査

3回の調査で蝦夷地の海岸線をほぼ踏破し、その記録をまとめ上げた武四郎。当時ロシアとの対外関係の中で蝦夷地に関心を抱いていた人々から注目を集めます。また、調査記録を江戸幕府へ献上したところその実績が認められ、蝦夷地内部の調査を命じられます。同時に武四郎はアイヌ民族の人口が激減している実態を調べており、幕府への調査報告書の中で第二にやるべきことはアイヌ民族の命と文化を守ることであると訴えています。4回目以降もアイヌの人々の協力を得て調査を進めていきますが、アイヌ民族への変わらぬ窮状を憂い、松前藩を糾弾していきます。

## 場所請負制度と撫育同化政策

武四郎が蝦夷地を調査した江戸時代末期、アイヌ民族を苦しめた政策が二つありました。松前藩による「場所請負制度」と江戸幕府による「撫育同化政策」といわれているものです。当初、松前藩はアイヌの人々と海産物の取引を松前城下で独占的に行っていました。やがてアイヌの人々の自由な取引を制限し、海岸線に交易をする「場(商場)」を設け、家臣に知行地として与えました。家臣はアイヌの人々と交易し、本州の商人との取引で利益を得ていました。しかし、商人の進出により交易場所としての「商場」から



松浦 武四郎



松浦武四郎記念館  
松浦武四郎の功績を讃え、松浦家で代々大切に保管されていた武四郎ゆかりの資料を展示しています。  
・三重県松坂市小野江町383番地  
・TEL.0598-56-6847



開拓神社  
・札幌市中央区宮ヶ丘474番地  
・TEL.011-611-0261  
(北海道神宮社務所)

## 《松浦武四郎 三重県関連展示施設》

■協力:北海道神宮、「開拓の群像」刊行委員会、三重県松浦武四郎記念館 ■写真・図録:松浦武四郎記念館所蔵



150年ほど前まで原野だった札幌は、人口190万人を超える大都市に発展しました。この住みやすく豊かな都市に栄えた背景として、明治2年に開拓判官として赴任した佐賀出身・島義勇の功績は大きく、彼の都市構想が現在の札幌の礎となっています。北海道開拓への熱い想いがより多くの人々に届くよう願っています。

コミックス  
好評発売中!!  
各書店にて  
お求めください。



「島義勇伝」製作委員会 著/エアーダイブ 定価:本体900円+税 ISBN:978-4-907436-02-5 C0921

発行 | Dybooks(ダイブックス) 〒064-0808 札幌市中央区南8条西4丁目422番地5 グランドパークビル3F TEL:011-533-3216 FAX:011-533-3215 エアーダイブから発信する! 本サイト <http://www.dybooks.jp/>

北海道・札幌の礎を築いた、開拓判官「島義勇」の物語

北海道庁 佐賀県庁  
タイアップ作品!! 推奨図書!!

◎札幌市役所 ◎北海道学校図書館協会 ◎佐賀市役所 ◎佐賀市教育委員会  
推薦図書!! 推薦図書!! 推薦図書!!

## 第9回 北海道神宮フォトコンテスト

北海道神宮の周辺は自然の恵みの宝庫です。神宮境内の四季折々の景色や、初詣詣、七五三詣、結婚式などの人々の様子。北海道神宮例祭(札幌まつり)、開拓神社例祭(神輿渡御)、神農田での行事などの祭事風景など、当神宮に関わる写真をお送りください。

応募部門: ①一般部門(専門学校、大学生含む) ②学生部門(中学生、高校生)

学生部門も  
作品募集中



応募締切  
平成31年  
3月10日(日)  
消印有効

賞品  
神宮賞 各部門1名  
▶賞状・賞金10万円  
(学生部門は図書カード5万円)

奨励賞 各部門2名  
▶賞状・賞金5万円  
(学生部門は図書カード3万円)

入選 各部門20名  
▶賞状・協賛会社賞品

●入賞・入選発表:平成31年4月上旬(北海道神宮ホームページにて)  
●入賞・入選作品展:平成31年4月~9月以内 神宮境内予定  
主催/北海道神宮 後援/北海道神宮奉賛会 協賛/中西印刷株式会社

北海道神宮

〒064-8505 札幌市中央区宮ヶ丘474  
TEL.011-611-0261 FAX.011-611-0264

▶コンテストについての詳細はホームページをご覧ください。  
[www.hokkaidojingu.or.jp](http://www.hokkaidojingu.or.jp) 北海道神宮 検索